

慶応義塾大学 経済学部 A 方式 傾向と対策

1. 過去の最低点

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年	2026 年
1 次選考	110/160(68.8%)	92/160(57.5%)	105/160(65.6%)	85/160(53.1%)	99/160(61.9%)	102/160(63.8%)	107/160(66.9%)	108/160(67.5%)
最終選考	265/420(63.1%)	234/420(55.7%)	231/420(55.0%)	209/420(49.7%)	248/420(59.0%)	231/420(55.0%)	224/420(53.3%)	241/420(57.4%)

2. 配点

数学 150 点 英語 200 点

★2027 年の入試から小論文が廃止されます、ご注意ください。

3. 特筆すべき出題範囲について

★数学 A の出題範囲は全てとなっています。

★数学 B では「数列」のみとなっています。「統計的な推測」は出題されないようです。

4. 学習について

試験時間は 80 分で 6 問出題されます。時間はかなりタイトです。1 次選考（足切り）が英語 90 点数学 70 点です。前半 3 問が穴埋めで、おそらくこれが 1 次選考で 70 点分と思われます。後半 3 問が記述で 80 点分でしょう。

ここ最近では 1 問目が小問集合となっていて解きやすい問題がおかれています。2 問目 3 問目のマーク式では数列、確率が出題され、後半の記述では、関数、ベクトル、微積分で特に関数は対数関数が多いです。データ分析や三角関数もちよいちよい入ってきますが、分野は割と決まっていますので上記の分野についてはよく演習しておきましょう。大問 1 つに 15 分もかけられないという少ない時間で、定石を素早く引き出し、的確に計算処理することに慣れていかねばなりません。特に東大京大一橋受験者が滑り止めとして受験してくるのでレベルの高い争いになります。もっとも重要なのは処理能力でしょう。日頃から計算の工夫等をして計算処理をしているか、適当な計算をしていないかが問われます。一つ一つの計算にしっかり向き合って速度を上げていきましょう。慶應経済は切れ味が求められます。他を圧倒する処理能力を鍛えるという気持ちで日々取り組んでいきましょう。

参考書ルートとしては次のような流れになるでしょうか。

①『青チャート』（レベル 4 まで）『Focus Gold』（レベル 3 まで）『LEGEND』（レベル 3 まで）『数学 1・A 基礎問題精講』『数学 II・B+ベクトル基礎問題精講』『Super Quick I +A』『Super Quick II・B・C（ベクトル）』といった網羅系参考書をこなしましょう。例題が解けるようになることが目標です。数学が苦手である生徒さんに対しては『Super Quick』をおすすめします。

時間のない受験生は『Super Quick』→『文系の数学 重要事項完全習得編』と学習するとよいでしょう。

②『大学への数学スタンダード演習』『文系の数学 実践力向上編』『理系数学の良問プラチカ 数学 I A II BC』といった問題集で演習を積むとよいでしょう。

③過去問演習で時間内に得点を稼ぐ練習をしましょう。時間が足りないと思います。限られた時間で自分の力を最大限発揮する練習は必要です。解けそうな問題からきっちり片づけ、難しい問題はあとにして部分点を稼ぐというスタイルになるでしょう。第一志望であれば 10 年分くらい取り組んでおきたいです。特に一次選考と思われるはじめの 3 つのマーク式問題はできるだけ点数を稼ぎたいです。例年 6 割後半が最低点になっていますので、過去問では 7 割は埋めることを目標に取り組んでください。

5. 過去の出題問題と難易度

過去に出題された分野と難易度を以下に示します。

A・・・完答必須です B・・・合格の明暗を分けそうです C・・・方針をとらえて部分点を得たいです D・・・難しいです。少しでも部分点がとれたら。 E・・・できなくても仕ないです

2019 年 目標 前半 8 割 後半 6 割

① 図形と方程式 B

多くは基本的な取り組みですが、(3)は図形的アプローチが必要です。 $\angle OPQ = 60^\circ$ は決まっているのでこれを用いたいと思えば、 75° を 45° と 30° に分けるように垂線を引こうと思いたいです。すると初等的な取り組みと

なります。また、 $\sin \frac{5\pi}{12} = \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4}$ は覚えておきたいです。導出する時間をもったいないと思われます。

他にも $\cos \frac{\pi}{5} = \frac{1+\sqrt{5}}{4}$ も覚えておきたいところです。

② 確率 A

変わった設定ですが、球の個数をおくなどして処理すれば難しいことはありません。完答を目指したいです。

③ 数列 B

偶奇で漸化式が異なる設定です。漸化式の演習に慣れていれば方針は難しくありません。ただ文字定数 r があって計算が煩雑となります。やりきれる受験生は少ないでしょうか。7, 8 割は埋めたいです。

④ 指数対数 B

やはり計算がやや多いですが、方針は難しくありません。なんとか解き切ってほしいです。

⑤ 空間ベクトル BC

(3)までは平易です。(4)は立方体への埋め込みの誘導ですが、できない受験生が大半と思われます。

⑥ 微積分 D

抽象的で時間的に厳しいでしょう。(1)だけでもできたらよいです。

総評

最後以外はそこまで難しいわけではなく、処理能力が問われるセットとなりました。普段から計算の的確さとスピードを意識して取り組みましょう。

2020 年 目標 前半 6 割 後半 5 割

① 整数の性質 C

(9)まで埋められたら上出来です。(5)(6)での絞り込みができたかで差がつきそうです。新課程となりこのような問題は今後出題されないのではと思われます。

② 確率 C

(2)までできたらよいでしょう。(2)は場合分けしてガツガツでよいでしょう。○と|を用いて出せますが、使えたとしても東大受験者の上位層でしょうか。

③ 数列 C

(2)までできたらよいでしょう。第 3 項と第 6 項をみて、穴に合うように埋めればよいです。帰納法は誘導があるので大丈夫と思われます。

④ 空間ベクトル C

(1)で終わってしまう受験生が多そうです。(2)で軌跡の式だけでもたどりつきたいです。

⑤ 対数関数、三角関数 C

無理やりいろいろ詰め込んだ問題です。(2)までは解きましょう。

⑥ 微積分 C

(1)で精一杯と思われます。

総評

かなり厳しいセットでした。時間内に完答できる問題はほぼないと思われます。上記にあげたようにできたら優秀な方であると言ってよいでしょう。おそらく、英語で差がついたのではと思われます。

2021 年 目標 前半 7 割 後半 5 割

① 図形と方程式 BC

図形的考察はそこまで高級なものではなく、定石にしたがって計算するだけです。(3)までやりきりたいです。

② 確率 B

ルールがやや読み取りにくいですが、はじめは 49 点で高め、おそらく 6 が連続して出るときだろうと当たりをつけ、その取り組みを例にしてルールをおさえられます。完答を目指したいです。

③ 数列 B

和と一般項を含む漸化式で定石的に処理すればよいです。計算力が問われますが完答したいです。

④ 対数関数、数列 B

これもやりきりたい問題です。特に特筆すべきところはありません。計算処理がメインです。

⑤ 空間ベクトル、図形の性質 C

(2)は結局平面の問題であり、(2)までいきたいです。(2)はベクトルではなく、メネラウスの定理で効率よく解きましょう。

⑥ 微積分 D

2019 年に似ている問題です。ここ最近 3 次関数が直線に接する設定が多く、3 時間数の設定が大切になってきます。過去問演習をしていれば(1)はとれたでしょう。

総評

前半は前年よりも取り組みやすく、それなりに差がついたと思われます。後半はいつもどおり、時間的に厳しいです。④ をしっかりこなせたかどうかは重要でしょう。

2022 年 目標 前半 6 割 後半 5 割

① 図形の性質、図形と計量、図形路方程式 B

図を的確に描いて図形的考察を交えねばなりません。計算が軽減される方法を考えていきます。完答したい問題です。

② 数列 C

(3) までできたら上出来でしょう。(3)で、とりあえずしばらく $a_n > 0$ だから、まず $a_n > 0$ として漸化式を解けばよさそうという発想があるかどうかです。(4)までは解ききれないでしょうか。

③ データ分析、確率、積分 C

方針がそこまで難しいというわけではないですが、計算が多く結構厳しいです。(2)途中までがんばりたいです。データ分析が出題されたのは久々で、今後注意しましょう。分散や共分散の計算の工夫 $V_x = \overline{x^2} - (\bar{x})^2$, $C_{xy} = \overline{xy} - \bar{x}\bar{y}$ 等はチェックしておきましょう。

④ ベクトル B

(3)までとりたいです。(2)ではCから平面OABに垂線を下ろして、垂線の足を求めて、としていると遅くなってしまう。法線ベクトルをとってきて手際よくやるという方法はおさえておきたいです。参考書にあるので慣れておきましょう。

⑤ 対数関数、数列、2次関数 B

やや計算が複雑なところがありますが、方針はさほど難しいところはありません。処理能力で差が出たことでしょう。完答を目指したい問題です。

⑥ 微積分 B

(2) の S を求めるところまでがんばりたいです。ここまでは頻出の問題です。

総評

前半がやや厳しいセットでした。処理能力が多分に問われています。逆に後半が得点を稼ぎやすくなっていました。前半で足切りがあるからといってこだわりすぎず、得点できそうなところをきっちりっていくというスタイルが大切な年でした。

2023 年 目標 前半 7割 後半 6割

① 図形と計量、図形と方程式、整数 B

そこまで難しくなく、おおむね完答したいです。(8)のところはヘロンの公式でササっと処理しましょう。このような番外的な公式もおさえておくとお得です。

② 数列 B

(2)まではとりたいです。途中 b_n の誘導がありますが階比型の漸化式 $a_{n+1} = \frac{n}{n+2} a_n$ 等の処理に慣れてないと遅くなります。参考書で確認しておきましょう。

③ 確率、データ分析 B

1000点！？と驚きますがそこまでルールは難しくなく、とりきりたい問題です。無理やり分散も聞いてきています。データ分析も出題したいという意図が見られます。

④ 対数関数、微分 C

(2)まではとりましょう。そこまではそれほど煩雑ではありません。

⑤ ベクトル B

今年は法線ベクトルの誘導をつけてきました。(前年度の反省でしょうか？)(3)までとりたいです。

⑥ 微積分 B

再び絶対値の積分が登場しましたが、場合分けはありません。(2)は3次方程式が実数解を2個もつときに極値のどちらかが0という発想がすぐでてきたかどうかです。よくある問題です。完答したいです。

総評

例年より取り組みやすかったと思います。とはいえども時間的に厳しいのは変わりません。この難易度であれば十分差がついたと思われます。有名問題をしっかりおさえて手際よく処理できたかどうかでしょう。

2024 年 目標 前半 7割 5分 後半 6割

① 小問集合(1) 整数問題 A (2) 三角関数 AB

(1)は解と係数の関係であっさりと解きたいです。(2)は基本的な公式の運用であり落とせません。

② 確率 B

コツコツタイプの確率です。場合分け等がもれないように取り組めば難しくはありません。時間がタイトであるため最後までやりきれぬ受験生は少なそうですが、(3)まではとりたいです。

③ 指数対数、数列 B

一見すると複雑そうですが誘導が丁寧であり、ほとんど完答したい問題です。計算ミスに注意しましょう。

④ ベクトル C

(1)は長さで等式を立てるよりも図形的に把握して取り組みたいところです。とはいえほとんどの学生は距離公式で方程式を立てたと思われます。(2)は平面を取り出すなどしないと難しく、ここで脱落した受験生は多そうです。

(3)ができた受験生はほとんどいないでしょう。

⑤ 指数対数、整数 BC

オリジナリティのある問題ですが、結局は基本的な計算がメインです。(3)で $2\alpha + \beta$ の値が1に限られると思えば(3)までは確保できるでしょう。全体的に何をやっているのか分からない受験生が多そうで、最後までできた受験生は少なそうです。

⑥ 微積分 B

そこまで煩雑な計算もなく抽象度も高くない問題でこれは完答したい問題です。本問は合否の明暗を分けた可能性があります。

総評

本年も前年度同様おだやかな出題となりました。一問目が小問集合となりました。前半 3 問できっちり得点を稼ぎたいです。また ⑥ をきっちりとして全体 6 割が目標です。

2025 年 目標 前半 7 割 5 分 後半 5 割

① 小問集合(1) 三角関数 A (2) 絶対値、整数 A

(1)はさらりと解きたいです。加法定理や 3 倍角の公式等を用いればよいです。公式で悩んだりしないようにしましょう。(2)は一見風変わりですが、誘導が丁寧であり、絶対値を外して計算すればよいだけです。

② 数列 B

複雑に見えますが誘導が丁寧であり、おおむねやりきりたいです。ただ最後の S_n は $k=1$ のときの扱いの仕方がやや難しいでしょうか。その前までできているのが望ましいですが、(2)までできていれば及第点でしょう。

③ 確率 B

反復試行ととらえられれば、計算の指針がすぐたちます。(3)までとれたらよいでしょう。(3)で的確に場合分けできたかどうかです。

④ 微分法、指数対数、整数 C

(3)まででよいでしょうが、(2)ができてない受験生は多そうです。 $m \leq \frac{1}{2}(p^2 + 2p)$ を得て $N = 40$ になるのは、 $40 \leq \frac{1}{2}(p^2 + 2p) < 41$ が条件だと思える受験生は少ないでしょうか。(1)(3)は得点したい。(4)は無視だろう。

⑤ 図形と方程式、空間ベクトル C

(2)までで精一杯でしょうか。(2)までは結局 2 円の共通接線の話です。ここまではきっちり解答したいです。点と直線の距離でもいいですが、相似や $\tan \theta$ を用いてやるのが素早いです。(3)以降はできてない受験生が大半でしょう。

⑥ 微積分 B

(1)で 6 分の 1 公式を封じてきました。計算の工夫をすることができたでしょうか。6 分の 1 公式を導いたことがあればある程度発想できたと思います。(2)がポイントです。条件式から $b-a$ の最小値を求めるのは力が要るでしょう。慶應生なら解き切りたい問題です。

総評

去年より難化しました。今年度も一問目は小問集合でした。前半 3 問はいつもどおりでそこまで難しくありません。ここできっちり点数を稼ぎたいです。後半 3 問で 5 割程度得点できたら及第点でしょう。

2026 年 目標 前半 7 割 後半 6 割

① 小問集合(1) 複素数と方程式、積分法 A (2) 図形と方程式 B

(1)は基本問題です。完答必須でしょう。(2)では円の方程式はスムーズに求めたいです。その後は円周角の定理に注目できるかどうかですが、数え漏れをした受験生は多そうです。

② 数列 C

複雑な漸化式です。(3)の問いから c_n が周期 4 の等比数列になるとつかめれば、(4)までは実験して穴埋めすることができます。真面目に取り組んでいると時間が足りないでしょう。全体の出来は悪いでしょう。

③ 確率 B

やや面倒ですが、3 回しか投げないので 8 通りの結果を緻密にとらえればよいです。処理能力で差がついたでしょう。

④ 対数関数、2 次関数、複素数と方程式 B

いろいろな話題がありますが、問いは基本的です。処理能力が問われています。最後に値域を求めるのが面倒です。右端を無視した受験生も一定数いるでしょう。

⑤ 空間ベクトル C

前年よりは解きやすいですが、最後までは厳しいでしょう。(3)までは典型的な処理ですので、ここまでがんばりたいです。

⑥ 微積分 BC

(1)が勝負所です。解と係数の関係を用いてスムーズに計算できたかどうか大切です。(2)は hint となる式があるのでここまでとりきりたいです。

総評

昨年程度の難易度でしょうか。出題分野も前年や前々年と同様でした。いずれにせよ定番の処理ができるかはもちろん、計算力が多分に問われていました。全てやりきるのは無理があるでしょう。